

はじめに

長泉町では、本年9月に開院した「静岡県立静岡がんセンター」（以下、静岡がんセンターという）の整備にあわせて、これまでアクセス道路の整備や鉄道駅の開設をはじめとする都市施設整備を進めることにより、懸念されてきた交通問題の解消に取り組んできている。

一方、静岡県が示す「富士山麓先端健康産業集積構想」（以下、ファルマバレー構想という）において、県東部地域を大局的に捉えた中での長泉町の果たす役割や整備すべき都市機能が定まっていないことから、構想の中核的研究機能としての役割を期待されている静岡がんセンターの立地する地域周辺の新たな土地利用、あるいは、静岡がんセンターに勤務する医者・看護師及び関連産業に新たに従事する人々等による人口増加に対応した居住地の確保など、静岡がんセンター立地に伴う環境変化への対応は遅れている状況である。

以上のようなことから、平成14年度は、平成13年度に国土交通省の調査と平行して長泉町が主体となって行った調査「静岡がんセンターを核とした自律型経済圏の形成と都市整備に関する調査」を引き継ぎ、本年度に国土交通省が実施する「多様な主体の参加と連携による活力ある地域づくりモデル事業」にあわせて、地元4市3町の協力体制によるファルマバレー構想の実現に向けた調査、すなわち「先端健康産業クラスターの形成による地域づくり検討調査」を行った。

本報告書は、本年度、長泉町が財団法人 日本システム開発研究所に委託した上記調査の一環として、静岡がんセンター周辺地区開発の考え方について詳細に検討した結果を「がんセンター周辺地区開発に向けた検討調査」と題し、調査報告書の別冊として取りまとめたものであり、今後の静岡がんセンター周辺地域における具体的な都市整備計画策定に資することを目的として行ったものである。

最後に、本調査を取りまとめにあたりご協力いただいた「先端健康産業クラスターの形成による地域づくり検討調査委員会」各委員、ヒアリング調査やシンポジウム開催にご協力いただいた方々に感謝の意を表する次第である。

平成15年3月
長泉町